



2023年10月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2023年6月14日

上場会社名 セルソース株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4880 URL <https://www.cellsource.co.jp/>
 代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 榎本理人
 問合せ先責任者（役職名） 執行役員 コーポレート本部長（氏名） 杉祐次郎（TEL） 0364555308
 四半期報告書提出予定日 2023年6月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有（投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2023年10月期第2四半期の業績（2022年11月1日～2023年4月30日）

（1）経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年10月期第2四半期	2,170	27.9	659	34.4	650	31.1	410	33.0
2022年10月期第2四半期	1,697	26.3	490	16.2	495	13.9	308	14.7
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円	銭	円	銭				
2023年10月期第2四半期	21	94	21	34				
2022年10月期第2四半期	16	54	16	05				

（2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年10月期第2四半期	4,812	4,201	86.4
2022年10月期	4,599	3,785	81.4

（参考）自己資本 2023年10月期第2四半期 4,156百万円 2022年10月期 3,743百万円

2. 配当の状況

	年間配当金					
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計	
	円	銭	円	銭	円	銭
2022年10月期	—	0.00	—	0.00	0.00	0.00
2023年10月期	—	0.00	—	—	—	—
2023年10月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年10月期の業績予想（2022年11月1日～2023年10月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	5,192	21.5	1,625	3.5	1,625	2.6	1,024	0.6	54	81

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2023年10月期2Q	18,695,700株	2022年10月期	18,685,800株
-------------	-------------	-----------	-------------

② 期末自己株式数

2023年10月期2Q	575株	2022年10月期	575株
-------------	------	-----------	------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

2023年10月期2Q	18,690,719株	2022年10月期2Q	18,644,192株
-------------	-------------	-------------	-------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

（決算補足説明資料及び決算説明会内容の入手方法）

当社は、2023年6月14日（水）に、オンラインによる投資家・アナリスト向け説明会を開催する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(重要な後発事象)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社は、2014年11月の「再生医療等の安全性の確保等に関する法律」及び「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」施行を踏まえ、再生医療関連事業の産業化推進と同業での新たな価値創出を目指し2015年11月に創設され、当事業年度は第8期となります。

当第2四半期累計期間における我が国経済は、景気は一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しており、先行きについては、ウィズコロナの下で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待されます。また、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっており、経済の見通しは依然として不透明な状況が継続するものと見込まれます。

このような経済環境を受け、当社におきましては、提携医療機関数が引き続き底堅く推移し、加工受託件数が前年同期比で順調に伸長しております。また、継続的な業容拡大や将来のさらなる成長を見越した基盤整備、人材採用、外部業者の活用及び研究開発を進めたこと等により販売費及び一般管理費が増加しておりますが、効率的な経営を維持した結果、売上高営業利益率（営業利益率）について高い水準を継続しております。

以上の結果、当第2四半期累計期間の売上高は2,170,612千円（前年同期比27.9%増）、売上総利益は1,542,630千円（前年同期比28.9%増）、販売費及び一般管理費は883,292千円（前年同期比25.2%増）、営業利益は659,338千円（前年同期比34.4%増）、経常利益は650,312千円（前年同期比31.1%増）、四半期純利益は410,061千円（前年同期比33.0%増）、セルソースグロスレート（以下、「CSGR」という。）は59.7%（売上高成長率27.9%+EBITDAマージン31.8%）となりました。

各サービス別の概況は、以下のとおりです。なお、当社は「再生医療関連事業」の単一セグメントを採用しております。

(加工受託サービス・コンサルティングサービス)

加工受託サービス又はコンサルティングサービスの契約を締結した提携医療機関数が前事業年度末から179院増加し、当第2四半期会計期間末には1,557院と順調に拡大いたしました。その結果、血液由来加工受託サービスと脂肪由来幹細胞加工受託サービスを合計した加工受託件数が前年同期の9,199件から当第2四半期累計期間は13,398件に増加するなどし、加工受託サービス・コンサルティングサービスの売上高は伸長いたしました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の加工受託サービスの売上高は1,478,860千円（前年同期比30.8%増）、コンサルティングサービスの売上高は222,452千円（前年同期比86.2%増）となりました。

(医療機器販売)

医療機器販売は、主に美容クリニック等の医療機関に脂肪吸引機器等の医療機器を販売しております。当第2四半期累計期間の売上高は358,560千円（前年同期比8.2%増）となりました。

(化粧品販売その他)

化粧品販売はBtoCモデルとBtoBモデルを展開しております。BtoCモデルは、主に自社Webサイトでの通信販売を中心に、自社化粧品を販売しております。また、BtoBモデルは前事業年度に立ち上げており、自社で開発した化粧品原料を販売事業者に提供したり、販売事業者からの委託を受けて自社化粧品原料を用いた化粧品のOEM製造・販売をしております。当第2四半期累計期間の売上高は110,739千円（前年同期比3.7%減）となりました。

当社が経営上の主要係数としてモニタリングしている加工受託サービス又はコンサルティング契約を締結した「提携医療機関数」、血液由来加工受託サービスと脂肪由来幹細胞加工受託サービスを合計した「加工受託件数」及び「営業利益率」の各数値、並びにサービス分類別売上高の四半期（3カ月）推移は以下のとおりとなっております。

また、当社は人=Human・社会=Social・未来=Futureにフォーカスした「HSF経営」の実践により高い収益性を維持しながら持続的に成長していくことを目指す中で、重要な経営指標としてCSGRを掲げております。

CSGR = 売上高成長率 + EBITDAマージン

(金額単位：千円)

	2022/10期 第2四半期	2022/10期 第3四半期	2022/10期 第4四半期	2023/10期 第1四半期	2023/10期 第2四半期	直前四半期 対比
提携医療機関数(期末)	1,204院	1,301院	1,378院	1,455院	1,557院	+102院
加工受託件数	4,711件	6,892件	7,071件	6,520件	6,878件	+358件
営業利益率	28.1%	38.1%	45.1%	33.2%	27.7%	△5.5ポイント
(サービス分類別売上高)						
加工受託サービス	581,652	757,135	887,858	743,484	735,375	△1.1%
コンサルティングサービス	59,495	111,772	125,154	113,422	109,030	△3.9%
医療機器販売	159,780	171,745	166,845	180,774	177,785	△1.7%
化粧品販売その他	75,174	135,313	220,982	21,848	88,890	+306.8%
(セルソースグロスレート)						
売上高成長率	21.6%	54.5%	71.3%	29.1%	26.8%	△2.2ポイント
EBITDAマージン	29.8%	39.5%	46.4%	34.6%	29.2%	△5.4ポイント
CSGR	51.4%	94.0%	117.6%	63.7%	56.0%	△7.7ポイント

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期会計期間末における総資産は4,812,374千円と前事業年度末から212,693千円増加いたしました。

これは主に、売掛金が240,204千円減少した一方、現金及び預金が237,595千円増加したこと及び敷金及び保証金の増加などによる投資その他の資産のその他が160,328千円増加したことによるものであります。

(負債)

当第2四半期会計期間末における負債は610,737千円と前事業年度末から203,411千円減少いたしました。これは主に、未払法人税等が162,557千円減少したこと及び買掛金が38,676千円減少したことによるものであります。

(純資産)

当第2四半期会計期間末の純資産は、資本金1,650千円及び資本準備金が1,650千円増加したことに加え、四半期純利益410,061千円の計上により、前事業年度末から416,105千円増加し、4,201,636千円となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という)の残高は3,361,176千円となり、前事業年度末と比較して237,595千円増加となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの増減要因は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間における営業活動による資金の増加は458,174千円(前年同期は57,975千円の増加)となりました。これは主に、法人税等の支払398,519千円及び仕入債務の減少38,676千円などがあった一方、税引前四半期純利益658,808千円の計上及び売上債権の減少240,204千円などがあったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間における投資活動による資金の減少は206,961千円(前年同期は85,851千円の減少)となりました。これは主に、敷金及び保証金の差入による支出171,094千円及び有形固定資産の取得による支出25,884千円などがあったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間における財務活動による資金の増加は2,907千円(前年同期は994千円の増加)となりました。これは主に、株式の発行による収入2,907千円などがあったことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年10月期の業績予想につきましては、2022年12月14日に公表いたしました予測値から変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年10月31日)	当第2四半期会計期間 (2023年4月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,123,580	3,361,176
売掛金	657,331	417,126
商品及び製品	121,352	123,116
仕掛品	23,188	35,948
原材料及び貯蔵品	82,482	75,443
その他	76,986	125,219
貸倒引当金	△7,528	△4,786
流動資産合計	4,077,393	4,133,244
固定資産		
有形固定資産	166,262	164,672
無形固定資産	10,480	8,749
投資その他の資産		
その他	345,544	505,873
貸倒引当金	△0	△165
投資その他の資産合計	345,544	505,708
固定資産合計	522,287	679,129
資産合計	4,599,680	4,812,374
負債の部		
流動負債		
買掛金	109,692	71,016
未払法人税等	420,726	258,169
賞与引当金	24,591	38,953
役員賞与引当金	—	1,500
受注損失引当金	9	239
その他	259,129	240,858
流動負債合計	814,149	610,737
負債合計	814,149	610,737
純資産の部		
株主資本		
資本金	689,226	690,876
資本剰余金	599,226	600,876
利益剰余金	2,454,176	2,864,238
自己株式	△1,696	△1,696
株主資本合計	3,740,933	4,154,294
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	3,045	2,213
評価・換算差額等合計	3,045	2,213
新株予約権	41,552	45,128
純資産合計	3,785,531	4,201,636
負債純資産合計	4,599,680	4,812,374

(2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2021年11月1日 至 2022年4月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2022年11月1日 至 2023年4月30日)
売上高	1,697,020	2,170,612
売上原価	500,711	627,981
売上総利益	1,196,308	1,542,630
販売費及び一般管理費	705,557	883,292
営業利益	490,751	659,338
営業外収益		
受取利息	1	7
為替差益	4,304	—
補助金収入	1,775	—
雑収入	663	9,135
営業外収益合計	6,745	9,143
営業外費用		
支払利息	11	—
為替差損	—	13,441
投資事業組合運用損	1,507	2,017
その他	18	2,709
営業外費用合計	1,537	18,168
経常利益	495,959	650,312
特別利益		
新株予約権戻入益	—	8,495
特別利益合計	—	8,495
税引前四半期純利益	495,959	658,808
法人税、住民税及び事業税	182,288	240,676
法人税等調整額	5,280	8,070
法人税等合計	187,569	248,746
四半期純利益	308,390	410,061

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2021年11月1日 至 2022年4月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2022年11月1日 至 2023年4月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	495,959	658,808
減価償却費	19,649	23,471
長期前払費用償却額	7,511	7,125
敷金償却	659	659
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	942	△2,576
賞与引当金の増減額 (△は減少)	24,932	14,361
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	1,000	1,500
受取利息	△1	△7
支払利息	11	—
為替差損益 (△は益)	△5,413	16,524
補助金収入	△1,775	—
投資事業組合運用損益 (△は益)	1,507	2,017
株式交付費	18	6
株式報酬費用	16,414	12,457
新株予約権戻入益	—	△8,495
売上債権の増減額 (△は増加)	△80,213	240,204
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△29,308	△7,485
前渡金の増減額 (△は増加)	△21,129	△15,567
仕入債務の増減額 (△は減少)	40,576	△38,676
前受金の増減額 (△は減少)	12,808	△2,624
その他	△139,494	△45,018
小計	344,655	856,685
利息の受取額	1	7
利息の支払額	△11	—
補助金の受取額	13,973	—
法人税等の支払額	△300,644	△398,519
営業活動によるキャッシュ・フロー	57,975	458,174
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△70,580	△25,884
無形固定資産の取得による支出	△3,850	—
長期前払費用の取得による支出	△56	△9,983
敷金及び保証金の差入による支出	—	△171,094
投資有価証券の取得による支出	△11,364	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△85,851	△206,961
財務活動によるキャッシュ・フロー		
株式の発行による収入	2,091	2,907
リース債務の返済による支出	△1,097	—
その他	—	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	994	2,907
現金及び現金同等物に係る換算差額	5,413	△16,524
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△21,468	237,595
現金及び現金同等物の期首残高	2,409,322	3,123,580
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,387,854	3,361,176

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。なお、四半期財務諸表に与える影響はありません。

(重要な後発事象)

(重要な設備投資)

当社は、2023年6月14日開催の取締役会において、下記のとおり設備投資について決議しました。

1. 設備投資の目的

再生医療等に係る国内外での有効臨床データの発表や当該治療方法の認知度の高まり等を背景に、当社の再生医療関連事業での加工受託件数は、順調に増加しており、今後もこの傾向は継続するものと認識しております。

こうした需要拡大への対応を見据え、殿町国際戦略拠点であるキングスカイフロント内のライフイノベーションセンターに、当社は、再生医療センター(以下、CPC)を立ち上げることにしました。

東証マザーズ市場(現 東証グロース市場)上場申請期の上期と比較して当社の加工受託件数は、約7.5倍に増加しており、今後も提携医療機関の拡大等により倍加していくことが見込まれます。この度の新規CPC取得により製造拠点面積を10倍以上に拡大し、将来的な受託件数の増加やエクソソーム創薬事業を含む新規事業の開始を見据えて製造体制を強化してまいります。

2. 設備投資の概要

(1) 所在地	神奈川県川崎市川崎区殿町
(2) 内容	再生医療関連事業における細胞培養加工施設
(3) 設備投資の額	50,000千円(予定)
(4) 稼働開始時期	2023年11月以降(予定)

3. 設備投資が営業・生産活動に及ぼす重要な影響

当該設備投資が2023年10月期の業績に与える影響は軽微であります。